

Nara Women's University

No.14

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学21世紀COEプログラムNewsletter編集委員会 公開日: 2013-04-11 キーワード (Ja): 古代と復古の間, 古代東アジアにおける都市の成立, 古墳時代像の再構築に向けて, 天皇制史論, 都市と条坊, 扶余訪問 キーワード (En): 作成者: 奈良女子大学21世紀COEプログラムNewsletter編集委員会 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/3329

奈良と古代

古代日本形成の特質解明の研究教育拠点

国際シンポジウム

古代東アジアにおける都市の成立 報告

宮路 淳子 (大学院人間文化研究科准教授)

◆国際シンポジウム

古代東アジアにおける都市の成立

第1日 2008年2月16日(土) 13:00~17:15

於：本学文学部南棟2階 S218号教室

◇東アジアにおける初期都市論の現状と課題

宮路淳子 (奈良女子大学)

◇伽耶地域における都市の成立と展開

朴天秀 (韓国慶北大学校)

◇百済における都市の成立と展開

—風納土城の発掘成果を中心に— 申鍾國 (韓国国立文化財研究所)

◇ベトナムにおける古代都市の発展

Tong Trung Tin (ベトナム社会科学院考古学院)

◇司会 宮路淳子

第2日 2008年2月17日(日) 9:00~15:00

於：本学文学部南棟2階 S218号教室

◇中国における初現期の都市 —都市形成の4段階—

岡村秀典 (京都大学)

◇日本における都市の初現・纏向遺跡の調査から

橋本輝彦 (桜井市埋蔵文化財センター)

◇弥生時代における〈都市〉成立の可能性

—北部九州、特に比恵・那珂遺跡群を例として—

久住猛雄 (福岡市教育委員会)

◆コメント 寺澤薫 (奈良県立橿原考古学研究所)

◆司会 宮路淳子・館野和己 (奈良女子大学)

今年度の国際シンポジウムでは、韓国とベトナムから研究者を迎え、近年の考古学的調査の成果を踏まえて、東アジア諸地域の都市成立の過程と比較することにより、日本の古代都市および国家形成の特質を明らかにすることを試みました。

第1日はまず宮路より東アジアにおける初期都市論の現状と課題についての整理を行い、「都市」の定義や東アジアでの初期都市の形成過程、日本における都市成立過程の特質についての問題提起を行いました。朴天秀氏は最近の考古学的成果を



シンポジウムの様子

踏まえ、大伽倻の都市である高霊では、5世紀末頃に複数の山城によって防御された防御網が形成されたことなどを報告されました。申鍾國氏は百済初期都城とみられる風納土城について、遅くとも3世紀代には風納土城が築造されていたことを



(前列左より) 館野氏、久住氏、申氏、Tong氏、朴氏、岡村氏。

(後列左より) 宮路氏、橋本氏、寺澤氏、出田氏。

報告されました。Tong Trung Tin氏はベトナムの囲壁集落の変遷や、昇龍(タンロン)城・ハノイ京について11世紀の都市計画が現在の旧市街にまで受け継がれていることなどを報告されました。

第2日は岡村秀典氏により、中国の古代都市が環濠集落—城郭集落—宮城の成立—王都という4段階を経て誕生したことなどを指摘されました。橋本輝彦氏は纏向遺跡が同時代の古墳時代集落と一線を画するものであったことを指摘されました。久住猛雄氏は比

恵・那珂遺跡群など北部九州の遺跡について、他の拠点集落とは規模や内容で大きく異なり、弥生時代の「都市」として検討すべきと指摘されました。発表後、都市の定義や各国の特質などについて活発な議論が行われました。2日間で百数十名の参加者が集まりました。

研究会 古墳時代像の再構築に向けて

◆研究会 古墳時代像の再構築に向けて

2008年1月26日(土) 14:00~17:00

於：本学文学部北棟1階 N101号教室

広瀬和雄（国立歴史民俗博物館/奈良女子大学）

◇司会 館野和己（奈良女子大学）

まず広瀬氏は、文献史学の研究が、3～7世紀の歴史を、律令国家成立前史（律令国家成立までの発展段階）として捉えており、考古学の研究がそれを前提にして進められている、と批判されました。その上で、大和政権の展開について自説を開陳され、前方後円墳国家の時代の歴史的特質を律令国家と対比してまとめられました。

討論では約20名の出席者を交え、文献史学・考古学の学問的方法の特性・限界、前方後円墳国家という概念などの問題に関して活発な議論がなされました。



研究会の様子

シンポジウム

王の条件 —水林彪著『天皇制史論』をめぐって—

◆シンポジウム 王の条件

—水林彪著『天皇制史論』をめぐって—

2008年3月4日(火) 13:00~17:30

於：本学大学院F棟5階会議室

◇共同態・首長共同態に関するメモ

大久保徹也（徳島文理大学）

◇〔中国古代史から〕中国古代皇帝権力の正当性の根源と支配の構造について

渡辺信一郎（京都府立大学）

◇水林彪著『天皇制史論』批判

小路田泰直（奈良女子大学）

◇コメント

小林敏男（大東文化大学）

◇コメント

水林彪（一橋大学）

◇司会

小路田泰直（奈良女子大学）

本シンポジウムでは、『天皇制史論』（岩波書店、2006年）を出版された水林彪氏をお招きして、書評会の形で進められました。

まず、大久保氏、渡辺氏、小路田氏、小林氏の順番で、水林氏の著書に対する疑問や意見などが発表され、それぞれの質問に対して水林氏が回答されました。

その後の総合討論では、水林氏の定義する「原始共同体」に議論が集中し、弥生時代の遺跡から出土した五銖銭の意味や、原始の形態をどのように想定すべきかが議論の中心となり、活発な意見交換がなされました。



シンポジウムの様子

レポート 扶余訪問記

竹内 亮（全学共通（COE担当）助教）

韓国・忠清南道の南部に位置する地方都市である扶余は、538年に百済が公州から遷都し、660年の百済滅亡まで王都として栄えた泗泚の故地です。2008

年3月25日から28日まで、扶余に残る泗泚時代の遺跡と遺物を調査するため、館野和己・竹内亮・北田裕行・吉野秋二・林部均（奈良県立橿原考古学研究所・

本学COEプログラム共同研究員)の5名(館野・林部両名は29日帰国)で扶余を訪れました。



王興寺塔跡の発掘調査現場

扶余では、国立扶余博物館学芸員である李鎔賢氏の案内のもと、泗泚都城の東を画する羅城、百濟時代の木簡が出土した陵山里廢寺・官北里遺跡・宮南池跡などの遺跡の实地踏査を行ないました。特に、国立扶余文化財研究所長の金容民氏、同学芸員の金洛中氏らのご厚意により、豪華な塔地鎮具や銘文の陰刻された舍利容器などが出土したことで日本の新聞紙上でも大きく取り上げられた王興寺塔跡の発掘調査現場を見学し、古代の日韓両地域における都城および寺院の比較研究を進める上で、大きな示唆を得ることができました。また、李鎔賢氏の立ち会いのもと、陵山里廢寺・官北里遺跡・宮南池跡の各遺跡から出土した木簡の実物を実見させていただき、文字の釈読や木簡の形状などの詳細な観察を行うことができました。

公開講座 古代と復古の間

◆公開講座 古代と復古の間

2008年3月22日(土) 13:00~18:00

於：本学コラボレーション3階大講義室

◇古代認識に革命は起きたか

小路田泰直 (奈良女子大学)

◇大麻の語る古代

斉藤恵美 (奈良女子大学大学院生)

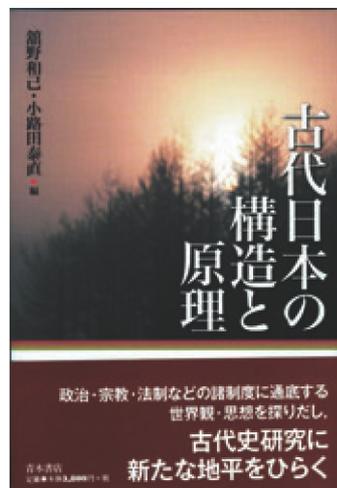
◇復古する精神の誕生—新井白石論—

近藤萌美 (奈良女子大学大学院生)

◇主権と正義と歴史

穎原義徳 (大阪大学PD)

本学COEでは、第5グループを中心に、これまでの研究活動を総括する形で、2008年1月青木書店より『古代日本の構造と原理』を出版しました。これまでの古代は未開であったというような古代観を覆



『古代日本の構造と原理』

青木書店、3,990円

す画期的な本となっています。

今回の公開講座は、これらの成果をふまえ、さらなる展開を目指し、古代に関わる研究を行っている若手講師による講演が行われました。古代に対する新たな視点の提示に、約十数名の参加者が聞き入りました。

COEサロン企画 連続研究会 古代都市を考える <第1回> 都市と条坊 —なぜ古代都市は条坊を整備するのか?—

◆連続研究会 古代都市を考える 第1回

都市と条坊—なぜ古代都市は条坊を整備するのか?—

2008年3月29日(土) 13:00~17:00

於：本学文学部北棟1階N101号教室

◇国土形成からみた古代日本の条坊制

山近久美子 (防衛大学校)

◇条坊の残影—平泉・宇治・白河—

前川佳代 (奈良女子大学博士研究員)

◇八世紀における京職の職掌について

宍戸香美 (奈良女子大学大学院生)

◆司会

吉野秋二 (奈良女子大学)

本連続研究会は本学若手研究者を中心とするCOE

サロンの活動の総決算として企画されたものです。

まず山近氏は、条坊制研究の現状と課題を整理し、律令制成立以前期の「国」「四方」といった史料を俯瞰し、国土形成と方位観念・境界認識との関係を追究されました。次に前川氏は、平泉の復原プランを示した上で、宇治・白河との異同を説き条坊制都城から中世都市への移行を展望されました。最後に宍戸氏は、京職の職掌を概観した上で、律令制期の「宅」「家」の用例を考察し、宅地班給と条坊制の関係について検討されました。討論では約40名の参加者を交え、開放系・閉鎖系といった都市プランの特徴、風水思想との関連といった問題について議論が行われました。

訃 報

本学の金子裕之COE特任教授が3月17日、63歳で逝去されました。先生は2005年3月に奈良文化財研究所を飛鳥藤原宮跡発掘調査部長として定年

退官された後、本学のCOE特任教授として研究、教育に当たられていました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

研究活動報告

◆国際シンポジウム

古代東アジアにおける都市の成立

第1日：2008年2月16日(土) 13:00～17:15

於：本学文学部南棟2階S218号教室

第2日：2008年2月17日(日) 9:00～15:00

於：本学文学部南棟2階S218号教室

※詳細は本誌1・2頁

◆国際講演会 ハノイの古代宮殿

Tong Trung Tin(ベトナム社会科学院考古学院)

2008年2月18日(月)

於：本学文学部南棟2階S225号教室

◆シンポジウム 王の条件

一水林彪著『天皇制史論』をめぐって一

2008年3月4日(火) 13:00～17:30

於：本学大学院F棟5階会議室

※詳細は本誌2頁

◆研究会 古墳時代像の再構築に向けて

2008年1月26日(土) 14:00～17:00

於：本学文学部北棟1階N101号室

※詳細は本誌2頁

◆公開講座 古代と復古の間

2008年3月22日(土) 13:00～18:00

於：本学コラボレーション3階大講義室

※詳細は本誌3頁

◆連続研究会 古代都市を考える 第1回

都市と条坊—なぜ古代都市は条坊を整備するのか?—

2008年3月29日(土) 13:00～17:00

於：本学文学部N棟101号教室

※詳細は本誌3頁

お知らせ

◆研究会「東南アジアの古代都市」

2008年4月19日(土) 10:00～12:00 於：奈良女子大学文学部南棟2階S225号教室

報告者：上野邦一(奈良女子大学)

◆研究会「古代の伊豆は島国であった—天武朝における伊豆国の成立を論じて、伊豆国造・伊豆ト部に及ぶ—」

2008年5月17日(土) 14:00～17:00 於：奈良女子大学文学部北棟2階N202号教室

報告者：原秀三郎(静岡大学名誉教授)

◆連続研究会 古代都市を考える 第2回 都市と仏教

2008年5月31日(土) 13:00～17:00 於：奈良女子大学文学部北棟1階N101号教室

上川通夫(愛知県立大学) 「古代仏教と寺院配置」

宮地明子(奈良女子大学) 「古代都市における神祇と仏教—唐祠令と日本神祇令の比較を中心に—」

中川由莉(奈良女子大学大学院生) 「寺院組織と国家の僧尼管理」

斉藤恵美(奈良女子大学大学院生) 「古代都市と霊—ミタマ・ゴリョウと仏教の関係より—」

◆2008年度連続市民講座

第1回 2008年5月22日(木) 18:00～19:30 「東南アジアの古代都市」上野邦一(奈良女子大学)

第2回 2008年6月26日(木) 18:00～19:30 「中国の古代苑池」北田裕行(奈良女子大学COE研究員)

第3回 2008年7月31日(木) 18:00～19:30 「古代女性の袴と裳」岩崎雅美(奈良女子大学)

於：奈良女子大学コラボレーションセンター3階大講義室(第1回・第2回)、奈良女子大学文学部北棟2階N202号教室(第3回)

*各回とも入場無料、参加申し込み不要。

『奈良と古代』第14号 2008.3.31

発行：奈良女子大学21世紀COEプログラムNewsLetter編集委員会

〒630-8506 奈良市北魚屋東町 奈良女子大学COE研究室・古代学学術研究センター

TEL&FAX:0742-20-3779

ホームページ：<http://koto.nara-wu.ac.jp/coe/> E-mail：coe-kodai@cc.nara-wu.ac.jp